

懐かしい松本の街並み

写真は信州松本の中心部の「千歳橋」付近である。この橋から女鳥羽川を眺めたりしたものだ。ここはデモの解散地点であり、ピラ配りの場所でもあった。

橋の角のところに「鶴林堂」という松本では大きな書店がある。私が信大に通っていた頃からあり、当時は本を買う金にも困ることも多く、よく立ち読みをさせてもらった。もっとも古本屋回りをすることの方が多かったが。以前のレポートでも記したように、この近くの古本屋で宮本憲一『社会資本論』を買い、それが私の「人生」を方向づけた。

その下の写真は、「千歳橋」から松本城の方に向かったところにある「しづか」という飲み屋あたりだ。ここも古くからある大きな飲み屋であり、大学時代にコンパなどによく利用した。「しづか」というよりも、威勢のいい学生たちで騒がしくなってしまうが。確か卒業式のあとに、ここに友人たちと集まり、飲んだ記憶がかすかにある。2階には大きな宴会場があり、同窓会の時には大勢の人であふれかえった。

もう一つの写真は、松本駅から信大に向けて歩き、「あがたの森」に近づいた頃である。「あがたの森」のヒマラヤ杉の後方には、美ヶ原の山並みが見える。松本にいた頃、美ヶ原の山並みとともに、乗鞍などの北アルプスの山々を眺めていると、なぜか心が落ち着いたものだ。中学2年から高校1年まで飛騨高山で過ごしていた頃も、逆方向からアルプスの山々を眺めていたことになる。飛騨と信州で青春時代を過ごしたわけで、なにか因縁のようなものを感じる。



(7月7日 記)